

20209その他の土石採取業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労 働 者 規 模
1	2017	12	8~9	就業場所の当社プラントに出勤後、作業準備を済ませ、作業場に向かおうと徒歩で当該敷地内を移動中、転倒により負傷したものと思料される。当時、地面には約10cmの積雪があり、その上でヘルメットを着用したまま仰向けに倒れていたところを現認者が発見し、直ちに救急搬送の上、当日の勤務時間中に病院を受診した。本人の注意不足による雪上歩行及び使用者側からの安全教育不足が当該事故の主原因と思料される。なお、失神の疑いもあるため、現在経過観察中である。	65	2	719	10 ~ 29
2	2017	4	12~ 13	当社採取場から事務所機材センターに帰る途中に車で走行中に、反対車線に入り、右側の電柱に正面衝突して車は全損した。	59	17	231	100 ~ 299
3	2017	3	9~10	製品積込終了後、積込用コンベアーのホッパー内シュートを掃除する為、足場（60cm×2m）から梯子（高さ2m）を登り掃除した後、梯子を下りる際、足場に放置してあったアングル（長さ60cm）の上に左足が乗ってしまい、足首を捻り負傷した。	59	19	921	10 ~ 29
4	2017	2	16~17	被災者を含め4名でロッドミル廃鉱口結合作業を行っていた際、微調整のためにレバブロックを使用していた時に、バランスを崩して50cm下の廃鉱口側の網の上に転倒した時に左足親指を強打した。	48	2	416	1~ 9
				車庫内で、10トンダンプカーの運転席に荷物を置くために乗				

5	2016	6	6~7	り、再び降りようとしたときに、運転席下部のステップに右足をかけ、次に左足をかけて降りようとしたが、かけた左足が不完全でバランスを崩してしまい尻もちをついて、更に後ろに倒れ、左後頭部をコンクリートの地面に強打した。	53	1	221	1~ 9
6	2016	6	10~ 11	営業車を運転し、事務所から得意先に向かう国道の登り左カーブのところでセンターラインをオーバーし、反対車線よりきた10tダンプと正面衝突をした。	24	17	231	100 ~ 299
7	2016	5	8~9	碎石置場で、バックフォーの上でエンジンオイルを補充し、立ち上がった際にバランスを崩し、背中より約2.2m下に転落し腰椎を骨折した。	56	1	416	10 ~ 29
8	2016	2	8~9	回転中のトロンメルのガイドレールに油を塗る作業を行う際、棒に油をつけ塗っていたが寒さの為油が固まり、うまくガイドレールに塗れなかったため、下部ローラーに塗っていたらガイドレールと下部ローラーに棒と右手が巻き込まれ右手を負傷した。	73	7	169	1~ 9
9	2016	1	10~ 11	プラントにおいて、碎石プラントのクラッシャーに付いている歯板を移動する作業をしている時に、歯板にワイヤーを掛け固定するチェーンブロックのフックにかけ上げようとした時に歯板を倒れないように手で押さえていて、一緒に作業していた従業員がチェーンブロックを静かに巻き始めたが、上がる間際、不意に歯板が倒れかけ、ワイヤーが緊張してしまい、ワイヤーと歯板の間に左手が挟まれ、びっくりしてしまいとっさに力強く手を引いてしまい、中指と人差し指の第一関節より先を負傷した。	69	7	361	30 ~ 49
10	2015	10	13~ 14	前方で右折しようとしていた車が進みだしたので、被災者も進んだところ、前方車輪が急ブレーキをかけ止まったので、前方車両をさけようと歩道に乗り上げ電柱に衝突した。	38	17	221	50 ~ 99
11	2015	5	15~ 16	ユンボでの作業を終えて降りようとした時、ステップから両足がすべって踏みはずし落下した時、右背中をキャタピラーで打った。	75	1	142	30 ~ 49

12	2015	3	15～ 16	原石ダンプのタイヤ交換の際、予備タイヤをフォークリフトで運ぶ為、持ち上げたところ、タイヤが倒れて転がってしまった。タイヤを止めようとし右手を出したが、タイヤの重みでタイヤとスタンド給油口のBOXの間で右手を挟み負傷した。	59	7	379	1～ 9
13	2014	11	9～ 10	プラント内でベルト及び機械の見廻りをしている時、ベルトコンベアのテールプーリー近くの内側へ石が入ったので皮手袋をはめて取ろうとしたら、皮手袋がベルトとテールプーリーの間に巻き込まれて被災した。	65	7	224	10 ～ 29
14	2014	11	9～ 10	採掘場にて掘削作業途中、車両整備の為運転席から重機（EX450）のキャタ部分に降りた時、右足がキャタ側部より滑り、原石のある地面に落下、その時地面の凹凸部分に足をつき、バランスを崩し右足首を痛めた。	34	1	145	30 ～ 49
15	2014	11	11～ 12	会社の事務所出入り口の所ですべり転んだ。	46	2	417	1～ 9
16	2014	9	11～ 12	プラント内に設置されている、碎石された石を加工する時に生じる石の粉（ダスト）を、外へ運び出すベルトコンベアのゴム質のドラムの表面が剥離していた為、その破損個所を右手で引っ張り除去しようとしたところ、腕ごとベルトコンベアに引っ張りこまれ、右手首、尺骨、橈骨、上腕骨を骨折し右肩脇下を裂傷した。	58	7	224	1～ 9
17	2013	9	16～ 17	碎石砂製造工場にて、点検作業中、階段の3段目(約1m)から後方に転落し、肘を強打した。	43	1	413	10 ～ 29
18	2013	7	7～8	大型ダンプの始業前点検の作業中、運転席側のサイドバンパーより飛び下りた為、コンクリートの床下に腰を打ち、転倒した。	39	3	221	1～ 9
19	2012	10	11～ 12	幅1m、高さ1.5mほどの狭い道路部で、1輪車を排工場所へ押していく途中、道路の高くなったところで一度に押し上げきれなかったため、再度押し上げようとバックした際、バランスを崩	69	1	417	30 ～ 49

				し、道路下へ転落した。				
20	2012	8	10～ 11	碎石場にて、発破箇所より約50m離れた場所での点火作業を行った際、20～30cmの岩が発破振動で法面より落下飛来し、腰に当たり、衝撃で飛ばされ、転倒した。腰を強打し、腕を負傷した。	25	4	711	1～ 9
21	2012	5	11～ 12	採石場にて、原石を小割り中のところへ、ダンプから降り、歩行したところ、小さな石の破片が下脛に当たり、負傷した。	42	4	523	1～ 9
22	2012	3	9～ 10	ダンプの荷台にて、雨天時に鶏舎からの荷積みをする場所に積んであるブロックの隙間を埋めるための石を荷台に積んでいる際、積んだ石がすでに荷台にあった別の石に寄りかかって不安定な状態にあったことにより倒れ、足の親指、人差し指を負傷した。	59	5	523	10 ～ 29
23	2012	2	16～ 17	ダンプ車を運転中、路外に逸脱、谷側に転落、受傷した（車両単 独自損事故）。	47	1	221	10 ～ 29
24	2012	1	13～ 14	プラント工場内にて、始業点検後、無負荷で移動させ、再度点検を行う際、ベルトコンベアのベルトが蛇行していた為、ローラーを確認しようとしたところ、ローラーに手が接触して、手がベルトコンベアとローラーの間に挟まれた。	34	7	224	10 ～ 29
25	2011	12	14～ 15	リサイクルプラントのクラッシャー歯を交換する為、重機にて吊り上げ作業をしている時、2本の角材の上に静かに歯を降ろすべく重機オペレーターと作業員二人が共に合図を確認しながら作業を進めていた。この時オペレーターは危険防止の為、二人に吊り上げた歯より離れるように2回指示を与え、二人はそれに従った。歯の一方を着地させ更にもう一方を角材に降ろすべく地面に近づいた時、一方の作業員に工具を手渡す担当をしていた本人（被災者）が歯の下に工具をみつけそれを取り出そうとして角材と歯の間に左人差し指を挟み被災した。	64	7	142	10 ～ 29
				A 駅構内、A 営業所内の販売用飲料水の在庫数が不足したため、				

26	2011	10	15～ 16	補充の為、4番線ホームの倉庫へ行き、飲料水を持ち帰り、営業所で整理していたところ、15時00分頃、腰をひねった。後日、朝起き上ろうとしたが痛みがひどく起き上がれなくB病院に行き診察してもらったところ急性腰痛症と診断され、8日間の療養が必要であると言われた。	30	19	911	50 ～ 99
27	2011	9	13～ 14	A社の資材置き場において、建築資材を4トンドンプで運搬中、急勾配の坂道を登りきれず、ダンプが後退し始めた為、ブレーキをかけたが、タイヤがスリップして操作不能となり、高さ3mの路肩からダンプごと転覆し負傷した。	48	2	221	10 ～ 29
28	2011	6	8～9	修理工場内にて、重機WA350（タイヤショベル）のファイナル（タイヤ取付け部）を修理のため分解し、部品の一部であるシャフト（長さ1m位、15～20kg）を洗浄し、持ち上げようとしたところ、足に違和感を感じると同時に、腰に激痛が走り、身動きが出来なくなった。	39	19	921	10 ～ 29
29	2011	2	14～ 15	ベルトコンベアの垂れゴムを直そうとしていたところ、服を挟まれて持っていかれてしまい、右脇腹を負傷した。	52	7	224	1～ 9
30	2011	1	8～9	碎石場のベルトコンベアの所で付着した氷を取り除こうとしていた際、ベルトコンベアを停止させずに作業しようとしたところ、ベルトコンベアに接触し左腕を巻き込まれてはさまれたため骨折した。	45	7	224	1～ 9
31	2010	10	15～ 16	弊社砂利採取場にて被災者が伐採した立木を4mごとに切断する作業中に、切断した立木を一人で人力にて持ち上げ移動しようとした（図-2のように）なんらかの原因により、立木を誤って右肩に、落とし、その後右足大腿骨まで滑り落ち右足大腿骨を骨折した。その骨折による内出血が原因となり、死亡したと思われる。	52	6	522	1～ 9
32	2010	10	9～ 10	10月4日A牧場でBが1人で碎石プラントでベルト修理中午前9時頃高さ2mのところ足すべらせ地上に落下して左右関節靭帯損傷、右肘関節上腕肘関節等打撲の怪我をした。	60	1	224	10 ～ 29

33	2010	9	9~ 10	A町工場において、当日プラントは休止していたが、ふるい機のメンテナンス中にふるい機の反対側に行く際、ベルトコンベア（鉄板屋根付）を乗り越える為、ベルトコンベア屋根に上り（両足を乗せ）右足で歩廊に着地した際に、歩廊が悪い部分に右足を置いた為、体勢が崩れたので慌てて左足を前のめりの状態で着地した所、全体重がつま先にかかりつま先を骨折した。	39	2	169	10 ~ 29
34	2010	9	14~ 15	スクリーンの組立て作業中、カバーを入れようとして、タイヤレバーでウェイトの隙間を開けるためこでていた所、タイヤレバーが外れその弾みでタイヤレバーを持ったまま顔面に当たり負傷した。	36	6	379	10 ~ 29
35	2010	9	11~ 12	工場内においてタイヤショベルでダンプカーに砂利を積み込んだ後に、次の作業に移ろうとして後退した時に後方にあった砂のストックコンベアベルトの基礎に激突した。	54	3	142	1~ 9
36	2010	8	11~ 12	採石確認のため、パワーショベルから降る時、不安定な小石の上に飛び降りてしまったことにより左足首を捻って転倒し、同部位を骨折及びアキレス腱を痛めてしまった。	66	3	921	1~ 9
37	2010	6	11~ 12	碎石工場内汚水処理場にて、泥塊除却作業中、プレス機の開板駆動車のローラーに上着の袖を巻き込まれ右前腕部を負傷した。	59	7	169	50 ~ 99
38	2010	5	13~ 14	A砕砂プラントでコンクラッシャの再わりの作業中、ベルトコンベアのローラーに土がついて、バリでおとしていたらバリといっしょに引っぱられて、右手がローラーはさまった。	60	7	224	1~ 9
39	2010	3	14~ 15	1次クラッシャーを停止して詰まりを取り除く作業をして機械を再始動した際、バランスを崩し約2mの高さから転落し骨折した。	54	1	418	10 ~ 29
				パレタイズロボット自動運転中、製品が荷取り位置端部（ストッパー位置）まで届かず、パレットの荷積状態が悪かったので、				

40	2010	2	8~9	ローラー駆動ベルトとローラーの間にこぼれた製品、ゴミなどが付着していると判断して、エアにて清掃、その後製品感知センサーが、ほこりの為に遮断され「製品を検知」となった為、ロボットの製品をつかむハンドが次の動作に移行し、ハンド部が頭部（ヘルメット着用）及び鼻にあたり負傷。	46	6	167	100 ~ 299
41	2009	6	16~ 17	原石採取場において、原石を採取及び車両への積込作業終了後、採取積込機械であるクローラ式バックホウ（1.6立方m）の運転席からキャタピラへ降り、そこから地面に飛び降りた時、地面が凸凹状態であった為、バランスを崩し転倒した。その際、バランスを保とうとして、右足付け根に大きな負荷がかかり骨折した。	59	2	921	10 ~ 29
42	2009	3	12~ 13	高さ1.8m程度の作業現場において、残土除去作業中、足を踏みはずし転落し、肩・腰を打って負傷した。	69	1	711	50 ~ 99
43	2009	2	11~ 12	作業現場の道路脇に置いてあったH鋼（幅15cm、長さ4m、重さ170kg）が邪魔になり、少し寄せる為2人で持ち上げ裏返して寄せたが、十分に裏返しが出来ない状態で手を離れたため、H鋼が落下し、右足の指に当たり右足指を骨折した。	25	4	521	1~ 9
44	2009	1	13~ 14	砕石機内で作業中、別の作業員が誤って、砕石機を作動させて、砕石機に足を挟まれた。	46	7	162	1~ 9
45	2008	9	9~ 10	納品後、パレット置場より空のパレットを引き上げる為、ダンプの荷台に積みシートを掛けていたところ、足を滑らせ荷台より転落、左手首を骨折した。	29	1	221	10 ~ 29
46	2008	9	6~7	敷地内で積み込み作業を終え、トラックに荷台に上がり、アオリ上部に乗っている砂利を捲く作業中、安全靴着用を怠ったため、アオリ上部に足を掛けた際、足を滑らせバランスを崩し、約3m下に転落した。	38	1	221	10 ~ 29
47	2008	8	16~	作業場にて、パワーシャベルで石を引っ掛け倒す作業をしていた	41	4	711	10 ~

			17	際、石の一部がはがれ、運転席に直撃し、負傷した。					29
48	2008	5	11～ 12	運転席にある修理中のプレートを回収するため20tダンプのドアを開け、乗り込もうとした時、足を踏み外して高さ1.8mのステップから転落。左足から地面についた。	52	1	221		1～ 9
49	2008	5	7～8	事務所でエンジンをかけ、運転側に降りる時にステップが二段あり、上のステップに右足を掛け、下のステップに左足を掛け、下りようとした時に左足が滑り落ちた。	51	1	221		1～ 9
50	2007	3	16～ 17	営業所前の墓石展示スペースで、墓石にカバーをかける際、足を踏み外し転倒した所に石の小物があり、負傷した。	46	2	523		100 ～ 299
51	2007	3	9～ 10	工場内で、プラント立ち上げ作業後、製品の袋詰作業中に、作業指示に従って作動すれば起きない機械トラブルが発生した。それを見た担当上司が注意して、被災者のヘルメットのふち部を平手で叩いた。その際、防塵マスクのプラスチック製の止め具が耳部に当たり負傷した。	51	8	911		10 ～ 29
52	2006	9	10～ 11	原料を破砕機で小割りしていた時、目詰りしたので破砕機に登って直していた。雨が強く降ってきたので中止して降りようとした時に足を滑らして墜落し（高さ約1.5m）負傷した。	59	1	162		50 ～ 99
53	2006	6	11～ 12	砂利（25mm）用のベルトコンベアの下で、選別されて落ちてきた砂利（25mm）の中から木クズを拾う作業をしていた時、落ちてきた砂利が飛び跳ねたため、接触し体の一部を負傷した。	62	4	224		10 ～ 29
54	2006	5	10～ 11	採取場で油圧ショベルにて、ダンプトラックに表土を積載して運搬中、油圧ショベルは積載が終わり、合図のクラクションを鳴らし、機械を作業方向に旋回し、次の作業のためバックしていて、ダンプトラック後部と衝突し、衝撃で負傷した。	47	6	142		10 ～ 29
55	2006	3	17～	場内で土を運んだ後、ダンプトラックの運転席から降りようとして、一番上のステップに足をかけたところ、滑り落ち、地上に飛	32	1	221		10 ～

			18	び降りた際に、体の一部を負傷した。				29
56	2006	2	8~9	ベルトコンベア下の砂ストック場において、支柱に取り付けていた砂止め用鉄板（18mm×1.5m×3.0m）が並行になっていなかったため正しい状態に戻すため鉄板を吊る準備をしていたところ、取り付けていた番線を先に切っていたため鉄板が倒れ、倒れる方向にいたため逃げ遅れ、体の一部を地面と鉄板に挟まれ負傷した。	56	5	521	30 ~ 49
57	2006	1	13~ 14	大雪のため、場内の排雪をすることになり、4tダンプのアオリを5名で外す作業中、4名でアオリを持ち1人がヒンジを外していた時、外れると同時にアオリを持っていた手が滑りアオリが被災者へ落下して負傷した。	60	4	221	30 ~ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。